

## 進行性腎細胞がん患者に対する分子標的治療の治療成績の検討

### 1. 研究の対象

1998年1月から2017年10月までの間に防衛医科大学校病院において進行性腎細胞癌(初発時局所進行性、初発時転移症例、術後再発症例)に対して分子標的薬治療が行われた方

### 2. 研究目的・方法

転移あるいは再発性腎細胞癌の治療は従来、インターフェロンやインターロイキンなどのサイトカイン療法がその中心を担ってきました。しかし、近年の基礎的研究を背景に生み出された分子標的治療薬は腫瘍自身や腫瘍への栄養血管(血管内皮細胞)が標的であり、その治療効果が確認されてきました。腎癌の診療ガイドラインにおいても、進行性腎細胞癌治療の第一選択となっています。本邦では2008年に保険承認され、「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」患者を対象に分子標的治療が施行されるようになりました。防衛医大においてもこのような進行性腎細胞癌の患者さんに対して分子標的薬治療を積極的におこなっており、サイトカイン療法が中心であった時代と比較し予後が改善されていることを実感しています。防衛医大における腎細胞癌の治療成績をさらに向上させるために、統計学的解析に基づいた防衛医大一施設における分子標的薬治療の成績を明らかにすることも非常に重要と考えています。

今回、2017年10月までに防衛医大で分子標的治療が行われた進行性腎細胞癌症例の患者さんの背景(年齢、性別、身体状況など)、術前画像所見、病理学的所見、治療効果、薬剤の副作用、予後などを調査し、防衛医大における治療成績を明らかにしたいと考えています。防衛医大での治療成績を正確に把握し、他施設の治療成績や多施設共同研究の成績と比較することにより、防衛医大における今後の腎細胞癌治療の成績の向上につながると考えています。

この研究は防衛医大の倫理委員会承認後から2019年12月31日までを研究期間としています。また研究の進捗状況について、1年に1回以上、実施状況を学校長に報告しております。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

過去の情報のみを用いる研究です。

調査する情報:背景および病歴(性別、年齢、身体状況、腫瘍側、腫瘍径、臨床病期、転移部位、血液データ、手術日など)、病理組織所見、薬剤投与量、投与スケジュール、薬剤の効果、有害事象、予後など

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、

研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県所沢市並木 3-2 防衛医科大学校泌尿器科学講座

伊藤敬一（研究責任者）

Tel: 04-2995-1511(内線 2351)